

愛媛県新居浜市大島方言のアクセント

秋 山 英 治

1. はじめに

愛媛県において「大島」という島が3島ある。旧、越智郡吉海町・宮窪町（現、今治市¹⁾）の大島、新居浜市の大島（他の大島と区別するために「新居大島」とも呼ばれる）、八幡浜市の大島である。この3島のなかで最も知られているのが、旧、越智郡吉海町・宮窪町の大島である。これは、島が大きく、人口も多いことはもちろんのこと、旧、越智郡吉海町・宮窪町の大島が、西瀬戸自動車道（通称「しまなみ海道」）上にある島で、観光地となっているためである。

この旧、越智郡吉海町・宮窪町の大島を含め、今治市から広島県尾道市にかけての芸予諸島は、いわゆる「東京式アクセント」と「京阪式アクセント」²⁾の2種類のタイプのアクセントが分布する地域として、アクセント研究の初期段階より注目されてきた³⁾。一方、新居浜市大島、八幡浜市大島は、島が小さく、人口も少ないこともあり、アクセント研究において注目されてこなかった。とくに、新居浜市大島方言については、管見の及ぶ範囲であるが、アクセントに関する報告はない⁴⁾。

そこで、今回、これまでアクセントについて未調査であった新居浜市大島において調査を行った。本稿では、その調査結果について報告する。

2. 島の概要

新居浜市大島は、新居浜市の東方約1.2kmに位置する有人島である。住民基本台帳による平成27年6月末日時点での人口は、225人である⁵⁾。平成22年の国勢調査の時点での人口が257人であったことからすると、13.5%の減少となる。中世に瀬戸内海を支配した村上水軍の祖・村上義弘の生誕地ともいわれ、ピーク時には2,000人近い人口のいた新居浜市大島も、現在では、急速な人口減少・高齢化が問題となっている。

本土新居浜市との交通機関は、市営の定期フェリーがあるだけである。フェリーの所要時間は約15分で、6時20分大島発から21時45分大島着まで、1日15便（往復30便）が運航している⁶⁾。

島の就業者数は、平成22年の国勢調査時点で、98人である。そのうち、漁業が35人、農業が6人で、総就業者数の40%を越えており、水産業・農業（第1次産業）が主要産業である。

島に、学校教育機関はない。島内の児童生徒（平成22年の国勢調査時で7人）は、渡海船を利用して、本土新居浜市の小学校（新居浜市立^{たきしま}多喜浜小学校）・中学校（新居浜市立^{かわひがし}川東中学校）に通学している。

3. 調査の概要

3. 1 調査地点・話者

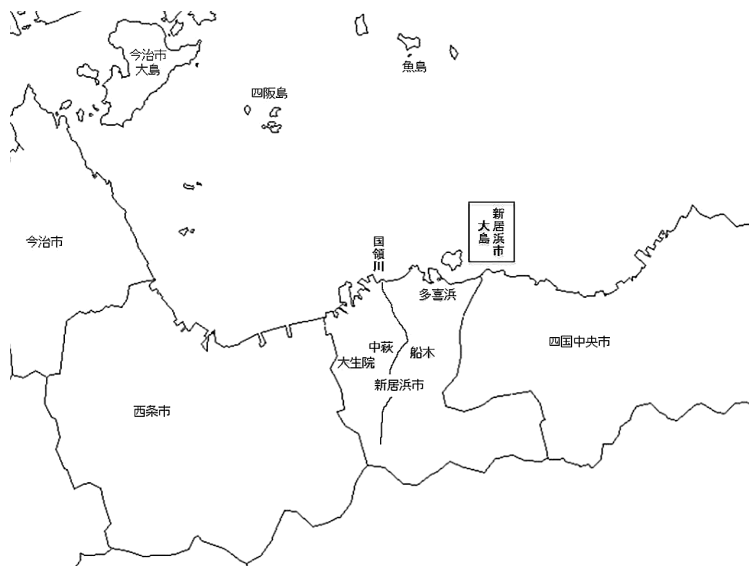
調査地点の新居浜市大島、およびその周辺部について地図で表すと、以下の【図1】のようになる⁷⁾。

話者は、新居浜市大島出身の二人である。以下、話者の略歴をイニシャル（個人情報の点から実名はあげない）・生年・性別（男性をm、女性をfとする）の順に示す（敬称は省略する）。なお、イニシャルについては、ともにG・Mとなることから、年齢の若い話者をg・mと小文字で表し、両者を区別する。

G・M氏 1930年生 m

g・m氏 1940年生 m

G・M氏、g・m氏ともに、外住歴はなく、生え抜きの話者である。



【図1】 新居浜市周辺図

3. 2 調査方法・調査語彙

調査方法は、話者に調査を読んでもらう「読ませる」調査を、2015年9月に行った。

調査語彙は、「金田一語彙」をもとに上野善道氏の「私家版調査票 (A)」の中から私に編んだものを用いた。すべての語ではないが、名詞については、単独言い切り・助詞「ガ」「モ」付き・「コノ」付きを調査した。動詞については、終止連体形・過去形 (助動詞「タ」接続形)・否定形 (助動詞「ン」接続形)・意志形 (助動詞「ウ・ヨウ」接続形)・禁止形 (助詞「ナ」接続形)・命

令形を調査した。形容詞については、終止連体形・過去形（助動詞「タ」接続形）・「ナイ」接続形・「ナル」接続形・連体形（「モノ」接続形）を調査した。

なお、本稿では、名詞の結果について報告する。

4. 音 調

4. 1 高起系列の〈式〉

新居浜市大島方言には、高起系列と低起系列の二つの〈式〉がある。

高起系列の〈式〉については、G・M氏、g・m氏ともに、「下降式音調」が聴かれる⁸⁾。

「○!○ 「○○!○ 「○○!○○

ただし、G・M氏、g・m氏ともに、「下降式音調」だけでなく、「高平調」（自然下降あり）、時には「中平調」（自然下降あり）に近いような音調も聴かれる。頻度としては、「下降式音調」が多いものの、「高平調」「中平調」など「下降式音調」以外の音調が聴かれる。佐藤栄作（1995）によれば、〈下降式〉は、「下降式音調」があるだけでなく、「高平調」など他の音調を含まない〈式〉であることを述べている。新居浜市大島方言では、「下降式音調」のみならず、「高平調」などの他の音調が聴かれることから、〈平進式〉と判断される。

G・M氏、g・m氏の「下降式音調」はともに、〈下降式〉（「讃岐式」）の新居浜市船木方言や四国中央市方言と比べて、下降の幅がやや小さい⁹⁾。これは、新居浜市大島方言の高起系列の〈式〉が、「高平調」や「中平調」も聴かれる〈平進式〉であるということが関係している。新居浜市大島方言では、わずかながらも「高平調」「中平調」が聴かれるために、これらの音調に牽引されて、「下降式音調」の下降の幅が、「下降式音調」のみしかない新居浜市船木方言や四国中央市方言より小さくなるのであろう。

高起系列の〈式〉を〈平進式〉なのか、それとも〈下降式〉なのかを判断する材料として、上記のように、「下降式音調」以外の音調の有無があるが、それ以外の判断材料としてH2型の有無がある。〈下降式〉を有する地域では、音声的に類似する「下降式音調」(「○○!○)とH2型(「○○|○)が紛れるのを避けるため、H2型はみられない。たとえば、2拍名詞第1類(H0型)に低接の助詞「モ」が接続した場合について、〈下降式〉の新居浜市船木方言の例とあわせて示すと、以下のようになる。

2拍名詞第1類(H0型) + 助詞「モ」

新居浜市大島方言	「○○ モ	H2型
新居浜市船木方言	「○ ○モ	H1型

〈下降式〉の新居浜市船木方言では、H2型が避けられ、〈下げ核〉が前にずれたH1型となる。一方、新居浜市大島方言では、〈下げ核〉のずれは起きず、H2型となる。本稿では、名詞を対象としているため、動詞の詳細については別稿に譲るが、2拍動詞第1類五段活用(H0型)に低接の助詞「ナ」が接続した禁止形の場合について、新居浜市船木方言の例とあわせて示すと、次のようになる。

2拍動詞第1類五段活用(H0型) + 助詞「ナ」

新居浜市大島方言	「○○ ナ	H2型
新居浜市船木方言	「○ ○ナ	H1型

2拍名詞第1類(H0型)に助詞「モ」が接続した場合と同様に、新居浜市船木方言では、H2型が避けられ、H1型となるのに対して、新居浜市大島方言では、H2型となる。また、新居浜市大島方言では、数としては少ないものの、3・4拍語にH2型がみられる。このことから、新居浜市大島方言の高起系列の〈式〉が、〈下降式〉ではなく、〈平進式〉であると判断される。

4. 2 低起系列の〈式〉

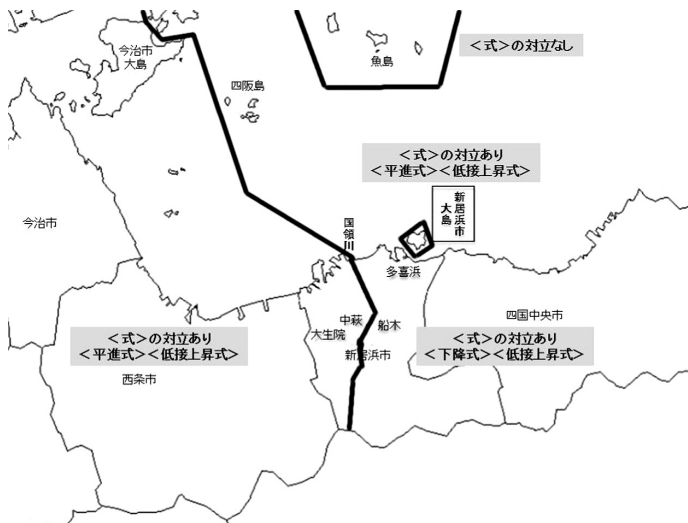
〈下降式〉に対立する低起系列の〈式〉については、G・M氏、g・m氏とともに、いわゆる「遅上がり調」とともに、「高平調」や「中平調」が聴かれる。

○○「○～○「○○～「○○○～%○○○

ただし、「この」などの先行の文節には必ず低く付き、また音調の方向性として大きな上昇はなくても上向きである。上野善道（1995）のいう「低接上昇式」である。

以上より、新居浜市大島方言は、〈平進式〉と〈低接上昇式〉の二つの〈式〉と〈下げ核〉が弁別的な特徴の体系となる。しかし、問題がある。それは、地理的に、新居浜市大島方言が、高起系列の〈式〉が〈下降式〉となる位置にありながら、〈平進式〉であるということである。

秋山英治（1998b）では、愛媛県東予地方における「中央式」「讃岐式」の



【図2】 〈式〉の分布図

境界が、新居浜市中萩^{なかはぎ}と新居浜市船木^{すみのしんてん}の間（角野新田あたり）と述べた。この境界地帯には、国領川^{こくりょうがわ}が流れており、実質上、国領川が境界と考えられる。この境界は、2拍名詞の類別体系によるものであるが、〈式〉の境界についても同様で、国領川以西が〈平進式〉（と〈低接上昇式〉）、国領川以東が〈下降式〉（と〈低接上昇式〉）である¹⁰⁾。この分布状況からすると、国領川以東にある新居浜大島方言は、〈下降式〉（と〈低接上昇式〉）となるはずであるが、調査の結果は、〈平進式〉（と〈低接上昇式〉）であった。【図1】の地図をもとに、〈式〉の状況（有無、〈式〉を有する場合はそのタイプ）を示すと、【図2】のようになる¹¹⁾。

【図2】からも、新居浜市大島方言の〈式〉（〈平進式〉〈低接上昇式〉）が、飛び地的な状況を呈しており、地理的に異質であることがわかる。秋山英治（1998b）では、国道11号線沿線にある地域（新居浜市は山間部よりの地域）を調査したことから、海岸域の調査を行っていなかった。そこで、今回、新居浜市大島方言を調査した後に、対岸の新居浜市多喜浜^{たきはま}（新居浜市大島にとって唯一の交通機関であるフェリーの黒島港^{くろしま}がある地域で、大島の児童生徒が通う小学校・中学校がある地域）を調査したが、新居浜市多喜浜方言は、国領川以東の地域と同様に、〈下降式〉（と〈低接上昇式〉）であった¹²⁾。

新居浜市大島方言が地理的に飛び地的に異質な状況にあるのは、〈式〉だけではない。詳しくは、5. 2の「類別体系」で後述するが、類別体系においても、地理的に飛び地的な状況を呈している。

5. アクセント体系と類別体系

5. 1 アクセント体系

新居浜市大島方言の1拍語から4拍語のアクセント体系を示すと、以下のようになる（／／は省略）。

〈平進式〉

H 0 型	「○ (○) ▽	「○○▽	「○○○▽	「○○○○▽
H 1 型	「○ (○) ▽	「○ ○▽	「○ ○○▽	「○ ○○○▽
H 2 型			「○○ ○▽	「○○ ○○▽
H 3 型			「○○○ ▽	「○○○ ○▽

〈低接上昇式〉

L 0 型	○ 「(○) ▽	○ 「○▽	○ 「○○▽	○ 「○○○▽
L 2 型		○ 「○ ▽	○ 「○ ○▽	○ 「○ ○○▽
L 3 型			○ 「○○ ▽	○ 「○○ ○▽

1 拍名詞については、長音化する傾向にある。ただし、たとえば、低接の助詞「モ」など付属語が付くと、長音化しない場合もある。

語末に〈下げ核〉がくる語末核型（H 3 型・L 3 型）については、3 拍語において、G・M 氏に拍内下降が聴かれた。

マッチ ○ 「○○” ○ 「○○ | ▽

ただし、上記のように、助詞「ガ」がつくと拍内下降は聴かれなくなる。拍内下降は、G・M 氏において、唯一「マッチ」の単語単独にのみである。G・M 氏においても、また g・m 氏においても、動詞・形容詞も含めて、上記以外で拍内下降は聴かれなかった。

4 拍語の語末核型については、聴かれなかった。これは、今回の調査では、4 拍語の語数が少なかったためで、調査語数を増やせばみつかる可能性がある。

5. 2 類別体系

新居浜市大島方言の 1 拍語から 3 拍語の類別体系を示すと、以下のようになる。

1 拍名詞	1 (H0型) / 2 (H1型) / 3 (L0型)		
第1類	「○ (○)	「○ (○) ▽	H0型
第2類	「○ (○)	「○ (○) ▽	H1型
第3類	○ 「(○)	○ 「(○) ▽	L0型
2 拍名詞	1 (H0型) / 2・3 (H1型) / 4 (L0型) / 5 (L2型)		
第1類	「○○	「○○▽	H0型
第2類	「○ ○	「○ ○▽	H1型
第3類	「○ ○	「○ ○▽	H1型
第4類	○ 「○	○ 「○▽	L0型
第5類	○ 「○	○ 「○ ▽	L2型
3 拍名詞 ¹³⁾	1 (H0型) / 2 (H1~L2型) / 4・5 (H1型) / 6 (L0型) / 7 (L2型)		
第1類	「○○○	「○○○▽	H0型
第2類	「○ ○○	「○ ○○▽	H1型
	~○ 「○ ○	~○ 「○ ○▽	~L2型
第4類	「○ ○○	「○ ○○▽	H1型
第5類	「○ ○○	「○ ○○▽	H1型
第6類	○ 「○○	○ 「○○▽	L0型
第7類	○ 「○ ○	○ 「○ ○▽	L2型

2拍名詞の類別体系から、新居浜市大島方言は、「中央式」(1/2・3/4/5)であることがわかる¹⁴⁾。ただし、4. 2の「低起系列の〈式〉」で述べたように、新居浜市大島が位置する国領川以東は「讃岐式」となる地域で、新居浜市大島方言の「中央式」は地理的に飛び地的な状況を呈しており、異質である。【図2】の地図に、2拍名詞の類別体系による部分類を加えて示すと、【図3】のようになる¹⁵⁾。

4. 2の「低起系列の〈式〉」で述べたように、新居浜市大島方言の調査後に、対岸の新居浜市多喜浜方言を調査したところ、新居浜市多喜浜方言は、国領川以東の地域と同様に、2拍名詞の類別体系が1・3/2/4/5の「讃岐



【図3】〈式〉および類別体系の分布図

式」(1拍名詞の類別体系は1/2/3の観音寺型)であった。国領川以東の「讃岐式」の特徴として、3拍名詞第4・5類にH0型がみられる(第5類については、H1型もみられる)ことがあげられるが、新居浜市多喜浜方言においても、第4・5類にH0型がみられた。一方、新居浜市大島方言の第4・5類はH1型で、国領川以西の「中央式」と同じである¹⁶⁾。

以上より、新居浜市大島方言は、〈式〉、類別体系ともに、地理的にみて飛び地の状況を呈しており、異質であることがわかる。

5.3 新居浜市多喜浜方言との比較

その他、対岸の新居浜市多喜浜方言と新居浜市大島方言を比べてみると、2拍名詞第3類、3拍名詞第4・5類を除く大部分において、類の例外となる語を含めて多くの部分が共通している。しかし、以下に示すように、新居浜市大島方言と新居浜市多喜浜方言とで異なる型となる語も散見される。

2拍名詞第1類「どこ」

新居浜市大島方言 H 0 型

新居浜市多喜浜方言 L 0 型

2拍名詞第2類「鞍」「肘」

新居浜市大島方言 H 1 型

新居浜市多喜浜方言 H 0 型

2拍名詞第4類「今日」

新居浜市大島方言 L 0 型

新居浜市多喜浜方言 L 2 型

上記の「どこ」「今日」については、新居浜市大島方言と今治市沖の^{くるしま}来島方言が同じ型をとる。対岸の新居浜市多喜浜方言ではなく、離れた今治市沖の来島方言と共通する部分があるということは非常に興味深い。

2の「島の概要」において、新居浜市大島は、村上水軍の祖・村上義弘の生誕地ともいわれるということ^{のしま いんのしま}を述べたが、来島は、能島、因島と並ぶ村上水軍の根拠地として知られる島である。現在、新居浜市大島は、唯一の交通手段の^{くろしま}定期フェリーが新居浜市黒島港と結ばれており、多喜浜を中心とした新居浜市との交流があるが、古くは新居浜市よりも、来島との交流が頻繁に行われていた可能性も考えられる。このように考えれば、新居浜市大島方言が、対岸の新居浜市多喜浜方言のように「讃岐式」(〈下降式〉)ではなく、「中央式」(〈平進式〉)であるということ(飛び地的な状況を呈していること)も納得がいこう。今治市沖の島嶼部については、現在調査中であるため、詳細な考察は今後の課題としたい。

6. おわりに

以上、新居浜市大島方言のアクセントについてみてきた。

その結果、二つの〈式〉(〈平進式〉〈低接上昇式〉)と〈下げ核〉が弁別的な

特徴を示す地域であること、また2拍名詞の類別体系が1／2・3／4／5の「中央式」であることが明らかになった。ただし、これらの特徴は、地理的にみて、飛び地的な状況を呈していた。なぜこのような異質な状況になったのか。今後、島の史実とともに、来島をはじめとした今治市沖の島々の調査もふまえて考察したい。さらに、新居浜市大島をはじめとした周辺島嶼部の史的変遷を考察したい。

注

- 1) 市町村合併が、平成15年から17年にかけて多く行われたが、合併により市町村名が変更になった場合のみ新旧両方の地名を示す。
- 2) 一般的には、全国のアクセントは「東京式アクセント」「京阪式アクセント」などに分類されるが、分類基準が曖昧であり、また共時的な分類に通時的な見方も紛れ込んでいるなど種々の問題がある（清水誠治（2010））。よって、これらの用語については、引用文献についてのみ用いることとし、本稿では、上野善道（1985）の2拍名詞の類別体系を基準とした分類（「～式」）に従って記述する。

なお、上野善道（1989b）のいう「文節初頭の高さ」「文節初頭からの音調の方向」を表す「式」については、2拍名詞の類別体系を基準とした分類の「式」と区別するために、〈式〉と表記する。

- 3) 愛宕八郎康隆・神部宏康・服部敬之・室山敏昭・佐藤虎男・岡野信子・白石寿文（1970）によれば、広島県尾道市から愛媛県^{はかたじま}伯方島（旧、越智郡。現、今治市）までが「東京式アクセント」、大島（旧、越智郡吉海町・宮窪町。現、今治市）以南が「京阪式アクセント」であることを報告している。旧、越智郡吉海町・宮窪町の大島については、「東京式アクセント」と「京阪式アクセント」の境界にあるということもあり、アクセント研究の初期段階から注目されてきた。
- 4) 八幡浜市大島については、清水誠治（1999）において、音調型のタイプが飛び地的に西予市と同じであることを述べている。
- 5) 新居浜市大島の人口については、新居浜市HP「校区別男女人口と世帯数」（<https://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/seisaku/zinkou-koukutyo.html>）による。
- 6) 島の交通状況、産業の現況については、愛媛県（2013）「愛媛県離島振興計画」を参照した。
- 7) 新居浜市については、秋山英治（1998b）で調査した3地点（大生院・中萩・船木）と

ともに、新居浜市大島の後に調査した対岸の新居浜市多喜浜も示す（多喜浜については、本文4. 2の「低起系列の〈式〉」、5. 2の「類別体系」、5. 3の「新居浜市多喜浜方言との比較」を参照されたい）。

なお、【図1】（以降の図）では、「中央式」と「讃岐式」の境界がわかるように、境界となる国領川も示す。

- 8) 本稿での音調表記は、以下の記号を用いる。下記以外の表記を用いている文献については、適宜、以下の表記に改める。

「 拍間の上昇 | 拍間の下降 ! | よりも小幅な下降

○ 任意の自立語の拍 ▽ 任意の付属語の拍

また、高起性をH、低起性をLとし、〈下げ核〉の位置を数字で表す表記も併せて用いる。

- 9) 新居浜市船木方言については、秋山英治（1998b）、四国中央市方言については、秋山英治（1998a）を参照されたい。
- 10) 中井幸比古（1986）によれば、境界地帯では、〈下降式〉と〈平進式〉の聞き分けが難しいことを指摘しているが、〈平進式〉〈下降式〉の境界を、「中央式」「讃岐式」の境界（東川^{ひがしかわ}）とほぼ同じとしている。筆者も、〈平進式〉〈下降式〉の境界と、「中央式」「讃岐式」の境界はほぼ同じになると考えている。
- 11) 今治市（旧、越智郡吉海町・宮窪町）の大島方言については、佐藤栄作（2005）を参照した。佐藤栄作（2005）によれば、二つの〈式〉があることが述べられているが、「下降式音調」の有無に関する記述はないため、〈式〉の詳細は、不明である。本稿では、今治市以南の島の状況および今治市の状況をふまえ、〈平進式〉〈低接上昇式〉とした。魚島方言については、上野善道（1989a）を参照した。
- 12) 新居浜市多喜浜については、以下の二人の話者に、調査票を読んでもらう「読ませる」調査を、2015年10月に行った。以下、話者の略歴をイニシャル（個人情報から実名はあげない）・生年・性別（男性をm、女性をfとする）の順に示す（敬称は省略する）。
- M・J氏 1944年生 f
O・M氏 1944年生 m
- 二人ともに、外住歴はなく、生え抜きの話者である。
- 13) 3拍名詞の第3類について、上野善道（2006）が指摘するように、「所属語彙の少なさと、方言における対応関係がすっきりしないことから、論著によって立てたり立てなかったりしている」ことから、本稿では、取り上げないこととする。
- 14) g・m氏においては、2拍名詞第4類に、L2型が多く聴かれている。類全体で見れば、L0型の方が多く、またL2型となる語のなかには、地域的に類の例外となる語も含

まれており、類の型としてL0型であることはまちがいない。魚島方言など周辺部をみても、第4類がL2型（H2型、2型も含む）となる地域がないことから、g・m氏にL2型が多く聴かれるのは不審である。

- 15) 魚島方言の1・2／3／4・5という類別体系は、通常「外輪式」として表記されるが、【図3】では、周辺部にみられない体系であるということから、便宜的に「魚島式」と表記した。
- 16) 西条市西部（旧、小松町・丹原町）から今治市、さらに松山市北部（旧、北条市）にかけての連続する地域では、3拍名詞第4類にH2型がみられる。このH2型は、近世中期頃まで京都方言など「中央式」諸方言にみられた古い型である。

京都方言では、近世中期以降、H2型はいわゆる昇核現象によって、H1型に変化している。愛媛県東中予地方においては、松山市方言・東温市方言の第4類がH1型であることから、京都方言と同様に、昇核現象を起こしたものと考えられる。愛媛県東中予地方、特に国道11号線沿線地域の3拍名詞第4類については、秋山英治（1998b）を参照されたたい。

引用文献

- 秋山英治（1998a）「愛媛の駅名アクセント」『鉄道文学』19
- 秋山英治（1998b）「愛媛県東中予地方にみられる「中央式」「讃岐式」の分布とその変遷」『愛文』33
- 秋山英治（2013）「愛媛県今治市方言のアクセントについて」『人文学論叢』15
- 愛宕八郎康隆・神部宏康・服部敬之・室山敏昭・佐藤虎男・岡野信子・白石寿文（1970）「伯方島アクセントは結局中国系か四国系か」『方言研究年報』11・12
- 上野善道（1985）「日本本土方言アクセントの系譜と分布（1）」『日本学士院紀要』40-3
- 上野善道（1989a）「愛媛県魚島方言の名詞のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』17
- 上野善道（1989b）「日本語のアクセント」『講座日本語と日本語教育2 日本語の音声・音韻（上）』
- 上野善道（1995）「松山市方言のアクセント調査報告」『愛文』30
- 上野善道（2006）「日本語アクセントの再建」『言語研究』130
- 愛媛県（2013）「愛媛県離島振興計画」（<http://www.pref.ehime.jp/h12900/keikaku/keikaku.html>、2015年9月1日閲覧）
- 佐藤栄作（1995）「ゆるやかな下降調の内省と聞き取りについて」『言語学林1995-1996』

- 佐藤栄作（2005）「しまなみ架橋時代のアクセント—伯方島のアクセントを中心に—」『「しまなみ」架橋による地域方言の変化—研究成果報告書—』
- 清水誠治（1999）「音調型から見た八幡浜周辺アクセントの成立について」『国語学』197
- 清水誠治（2010）「愛媛にみるアクセント分布の多様性」『日本語研究の12章』（明治書院）
- 中井幸比古（1986）「愛媛県新居浜市におけるアクセントの境界について」『言語学研究』5

附 記

調査において、話者の方をはじめ、話者の方をご紹介くださった方など、多くの方にお世話になりました。個人情報から、お名前をあげることは控えますが、ご協力いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

資料編

資料編として、末尾に、新居浜市大島の1～4拍名詞のデータ（G・M氏、g・m氏）を示す。参考として、新居浜市大島の対岸の新居浜市多喜浜のデータ（M・J氏、O・M氏）も併せて示す。

データについては、拍数、類、読み、各話者の型の順に示す。

型が揺れている場合は、「H1、L2」のように示す。?は話者の疑問、#は筆者の疑問、-は未調査を表す。その他の注記については、それぞれの型の下に記す。

秋 山 英 治

拍 類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜	拍 類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜
			G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)				G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)
1 1	柄	エ	HO	HO	HO	HO	2 1	酒	サカ	HO	HO	HO	HO
1 1	蚊	エ	HO	HO	HO	HO	2 1	皿	サラ	HO	HO	HO	HO
1 1	子	コ	HO	HO	HO	HO	2 1	鑿	シツ	HO	HO	HO	HO
1 1	血	チ	HO	HO	HO	HO	2 1	杉	スキ	HO	HO	HO	HO
1 1	戸	ト	HO	HO	HO	HO	2 1	底	コ	HO	HO	HO	HO
1 1	帆	ホ	HO	HO	H1, HO	HO	2 1	袖	フデ	HO	HO	HO	HO
1 2	名	ウ	H1	H1, HO	H1	HO	2 1	滝	タケ	#HO, L2	H1	HO	HO
1 2	葉	ハ	H1	H1	H1	H1	2 1	竹	タケ	HO	HO	HO	HO
1 2	日	ヒ	H1	H1	H1	H1	2 1	棚	タナ	HO	HO	HO	HO
1 2	藻	モ	H1	H1	H1	H1	2 1	誰	タレ	H1	H1, HO	L0	L0
1 2	矢	ヤ	H1	H1	H1	H1	2 1	爪	ツメ	HO	HO	HO	HO
1 3	絵	エ	L0	L0	L0	L0	2 1	鳥	トリ	?HO	H1, HO	?L0	L0
1 3	木	キ	L0	L0	L0	L0	2 1	西	ニシ	HO	HO	HO	HO
1 3	酢	ス	L0	L0	L0	L0	2 1	蠅	ハエ	HO	HO	HO	HO
1 3	田	タ	L0	L0	L0	L0	2 1	箱	ハコ	HO	HO	HO	HO
1 3	手	テ	L0	L0	L0	L0	2 1	蜂	ハチ	HO	#H1	HO	HO
1 3	根	ネ	L0	L0	L0	L0	2 1	鼻	ハナ	HO	HO	HO	HO
1 3	火	ヒ	L0	L0	L0	L0	2 1	羽	ハネ	HO	HO	HO	HO
1 3	屁	ヘ	L0	L0	L0	L0	2 1	髭	ヒゲ	HO	HO	HO	HO
1 3	穂	ホ	L0	L0	#H1, HO	L0	2 1	膝	ヒザ	HO	HO	HO	HO
1 3	目	メ	L0	L0	L0	L0	2 1	暇	ヒマ	HO	HO	HO	HO
1 3	湯	ユ	L0	L0	L0	L0	2 1	笛	フエ	HO	HO	HO	HO
1 3	夜	ヨ	L0	L0	L0	L0	2 1	蓋	フタ	HO	HO	HO	HO
1 3	輪	リン	L0	L0	L0	L0	2 1	筆	フデ	HO	HO	HO	HO
1 X	毛	ケ	HO	HO	HO	HO	2 1	星	ホシ	HO	HO	HO	HO
1 X	巢	ス	HO	HO	HO	HO	2 1	真似	マネ	H1	H1	H1	H1
1 X	背	セ	HO	H1	HO	HO	2 1	右	ミギ	HO	HO	HO	HO
1 X	齒	ハ	H1	H1	H1	H1	2 1	水	ミズ	HO	HO	HO	HO
1 X	刃	ハ	H1	H1	H1	H1	2 1	虫	ムシ	HO, H1	H1	HO	HO
1 Z	子	コ	HO	HO	HO	HO	2 1	桃	モモ	HO	HO	HO	HO
1 Z	蛾	ガ	HO	HO	HO	HO	2 1	百合	ユリ	HO	HO	HO	HO
1 Z	気	キ	HO	HO	HO	HO	2 1	横	ヨコ	HO	HO	HO, L2	L2
1 Z	九	ク	HO	HO	HO	HO	2 1	嫁	ヨメ	HO	HO	HO	HO
1 Z	苦	ク	HO	HO	?HO	HO	2 2	痣	アザ	L2	L2	H1, L2	L2
1 Z	五	ゴ	HO	HO	HO	HO	2 2	鯨	アジ	H1	H1	H1, L2	H1, HO
1 Z	暮	コ	HO	HO	L0	HO	2 2	あ	アレ	H1	H1	L0	H1
1 Z	詩	シ	HO	HO	HO	HO	2 2	毬	イサ	H1	H1	?H1	L2
1 Z	痔	ジ	HO	HO	#HO	HO	2 2	石	イシ	H1	H1	H1	H1
1 Z	地	ジ	#HO	L0	L0	L0	2 2	岩	イワ	H1	H1	H1	H1
1 Z	字	ジ	L0	L0	L0	L0	2 2	歌	ウタ	H1	H1	H1	H1
1 Z	茶	チャ	L0	L0	L0	L0	2 2	音	ネ	H1	H1	H1	H1
1 Z	出	デ	HO	HO	HO	HO	2 2	垣	カキ	H1	H1	HO	HO
1 Z	二	ニ	#L0	L0	L0	L0	2 2	型	カタ	H1	H1	H1	H1
1 Z	間	マ	HO	HO	HO	HO	2 2	紙	カミ	H1	H1	H1	H1
1 Z	間	マ	HO	HO	HO	HO	2 2	糞	カフ	L0	L2	H1	H1, L2
1 Z	実	ミ	HO	HO	HO	HO	2 2	川	カハ	H1	H1	H1	H1
1 Z	身	ミ	HO	HO	HO	HO	2 2	北	キタ	H1	H1	H1	H1
2 1	舐	アメ	HO	HO	HO	HO	2 2	牙	キバ	H1	H1	H1	H1
2 1	鳥賊	ウ	HO	HO	HO	HO	2 2	杭	クイ	H1	H1	H1	H1
2 1	牛	ウシ	HO	HO	HO	HO	2 2	串	クシ	HO	H1	HO	HO
2 1	梅	ウメ	HO	HO	HO	HO	2 2	鞍	クラ	H1	H1	HO	HO
2 1	枝	エダ	HO	HO	HO	HO	2 2	下	シモ	H1	H1	H1	H1
2 1	海老	エビ	HO	HO	HO	HO	2 2	蟬	セミ	H1	H1	H1	H1
2 1	柿	カキ	HO	HO	HO	HO	2 2	旅	タビ	H1	H1	H1	H1
2 1	風	カゼ	HO	HO	HO	HO	2 2	為	タマ	?H1	H1	H1	H1
2 1	蟹	カニ	HO	HO	HO	HO	2 2	次	ツギ	H1	H1	?H1	H1
2 1	金	カネ	HO	HO	HO	HO	2 2	弦	ツル	H1	H1	H1	H1
2 1	壁	カベ	HO	HO	HO	HO	2 2	梨	ナシ	H1	H1	H1	H1
2 1	雉	キズ	HO	HO	HO	HO	2 2	夏	ナツ	H1	H1	H1	H1
2 1	傷	キズ	HO	HO	HO	HO	2 2	虹	ニジ	H1	H1	HO	H1
2 1	桐	キリ	HO	HO	HO	HO	2 2	橋	ハシ	H1	H1	H1	H1
2 1	釘	クギ	HO	HO	HO	HO	2 2	旗	ハタ	H1	H1	H1	H1
2 1	口	クチ	HO	HO	HO	HO	2 2	機	ハタ	H1	H1	H1	H1
2 1	首	クビ	HO	HO	HO	HO	2 2	肘	ヒジ	H1	H1	HO	HO
2 1	腰	コシ	HO	HO	HO	HO	2 2	人	ヒト	H1	H1	H1	HO
2 1	胡麻	ゴマ	HO	HO	HO	HO	2 2	昼	ヒル	H1	H1	H1	H1
2 1	此	コレ	HO	HO	HO	HO	2 2	冬	フユ	H1	H1	H1	H1

愛媛県新居浜市大島方言のアクセント

拍	類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜	拍	類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜
				G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)					G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)
2	2	町	チ	H1	H1	H1	H1	2	4	海	ウミ	L0	L0	?L0	L0
2	2	胸	ムネ	H1	H1	H1	H1	2	4	帯	オビ	L0	L0	L0	L0
2	2	村	ムラ	H1	H1	H1	H1	2	4	傘	カサ	L0	L0	L0	L0
2	2	雪	ユキ	H1	H1	H1	H1	2	4	数	カズ	L0	L2	L0	-
2	2	余所	ヨソ	H1	H1	H1	H1	2	4	肩	カダ	L0	L0	L0	L0
2	2	業	ウヂ	H1	H1	H1	H1	2	4	角	カド	L0	L2	L0	L2
2	3	垢	アハ	H1	?H1	H0, H1	H0, L2	2	4	鎌	カマ	L0	L0	L0	L0
2	3	足	アシ	H1	H1	H0	H1	2	4	杵	キネ	L0	L2	L0	L0
2	3	穴	アナ	L0	L0	L0	L0	2	4	今日	ケイ	L0	L0	L2	L2
2	3	網	アミ	H1	H1	H0	H0	2	4	錐	キリ	L0	L2	L0	L0
2	3	池	イケ	H1	H1	H0	H0	2	4	肩	カダ	L0	L2	L0	L0
2	3	犬	イヌ	H1	H1	H0	H0	2	4	管	クワ	L0	L2	L0, L2	L0
2	3	芋	イモ	H1	H1	H0	H0	2	4	今朝	ケサ	L0	L2	L2	L2
2	3	色	イロ	H1	H1	H0	H0	2	4	桁	ケタ	L0	L0	L0	L0, H0
2	3	腕	ウデ	H1	H1	H0	H0	2	4	下駄	ゲダ	L0	L0	L0	L0
2	3	馬	ウマ	H1	H1	H0	H0	2	4	鞘	サヤ	L0	L0	L0	L0
2	3	膿	ウミ	H1	H1	H0	H0	2	4	汁	シユ	L0	L0	L0	L0
2	3	裏	ウラ	H1	H1	H0	H0, H1	2	4	筋	スジ	L0	L0	L0	L0
2	3	鬼	オニ	H1	H1	H0	H0	2	4	隅	スミ	L0	L0	L0	L0
2	3	親	オヤ	H1	H1	H0	H0	2	4	銭	ゼニ	L0	L0	L0	L0
2	3	貝	カイ	H1	H1	H0	H0	2	4	外	ソト	L2	L2	L0	L2
2	3	鍵	カギ	H1	H1	H0	H0	2	4	側	ソバ	L2	L2	L0	L2
2	3	髪	カミ	H1	H1	H1	H0	2	4	空	ソラ	L2	L2	L0	L2
2	3	瓶	カマ	?L0, H1	L2	H0	H0	2	4	種	タネ	L0	L2	L0	L0
2	3	皮	カバ	L0	L2	L0	L2	2	4	杖	ツエ	L0	L0	L0	L0
2	3	茎	クキ	H1	H1	H0	H0	2	4	粒	ツブ	L0	L0	L0	L0
2	3	草	クサ	H1	H1	H0	H0	2	4	苗	エダ	L0	L0	L0	L0
2	3	櫛	クシ	H1	H1	H0	H0	2	4	中	ナカ	L2	L2	L2	L2
2	3	靴	クツ	H1	H1	H1	H1	2	4	何	ナニ	L0	L2	L0	L0
2	3	熊	クマ	H1	H1	H0	H1	2	4	撃	ヒキ	L0, H1	-	L0	H0
2	3	雲	クモ	H1	H1, H0	H0	H0	2	4	箸	ハシ	L0	L0	L0	L0
2	3	栗	クリ	H1	H1	H0	H0	2	4	肌	ハダ	L0	L0	H0, L0	H1
2	3	米	コメ	H1	H1	H0	H0	2	4	針	ハリ	L0	L0	L0	L0
2	3	坂	カサ	H1	L2	H0	H0	2	4	船	フネ	L0	L0	L0	L0
2	3	塩	シホ	H1	H1	H0	H0	2	4	紅	ベニ	L2	L2	L2	L2
2	3	島	シマ	H1	H1	H0	H0	2	4	へら	ヘラ	L0	L2	H1, L0	L2
2	3	墨	スミ	H1	H1	H0	H0	2	4	他	ホ	L0	L0	L0	L0
2	3	谷	タニ	H1	H1	H0	H0	2	4	松	マツ	L0	L0	L0	L0
2	3	玉	タマ	H1	H1	H0	H0	2	4	味噌	ミソ	L0	L0	L0	L0
2	3	月	ツキ	H1	H1	H0	H0	2	4	養	ミノ	L0	L2	?H0	L2, L0
2	3	網	ツナ	H1	H1	H0	H1	2	4	麦	ムギ	L0	L2	L0	L2
2	3	角	ツノ	H1	H1	H1	H0	2	4	宿	ヤド	L0	L0	L0	L2
2	3	毒	ドク	H1	H1	H0	H0	2	4	異	イハ	L0	L0	L0	L0
2	3	年	トシ	H1	H1	H0	H0	2	4	薑	ワラ	L0	L0	L0	L0
2	3	波	ナミ	H1	H1	H0	H0	2	5	藍	アイ	#L0	H1, L0	H1	H1
2	3	蚤	ハミ	H1	H1	H0	H0	2	5	青	アヲ	L2	L2	L2	L2
2	3	海苔	リ	H1	H1	H0	H0	2	5	赤	アカ	L2	L2	L2	L2
2	3	恥	ハヅ	H1	H1	H0	H0	2	5	秋	アキ	L2	L2	L2	L2
2	3	鉢	ハチ	H1	H1, L2	H0	H0	2	5	朝	アサ	L2	L2	L2	L2
2	3	花	ハナ	H1	H1	H0	H0	2	5	汗	アセ	L2	L2	L2	L2
2	3	腹	ハラ	H1	H1	H0	H0	2	5	兄	アニ	L2	L2	L2	L2
2	3	孫	マコ	H1	H1	H1	H1	2	5	蛇	アブ	L2	L2	L2	L2
2	3	豆	マメ	H1	H1	H0	H0	2	5	雨	アメ	L2	L2	L2	L2
2	3	店	ミタ	H1	H1	H0	H0	2	5	鮎	アユ	L2	L2	L2	L2
2	3	耳	ミミ	H1	H1	H0	H0	2	5	井戸	イド	L2	L2	L2	L2
2	3	姪	メイ	H1	H0	H0	H0	2	5	桶	バケ	L2	L2	L2	L2
2	3	山	ヤマ	H1	H1	H0	H0	2	5	牡蠣	カキ	L2	L2	L2	L2
2	3	指	ユビ	H1	H1	H0	H0	2	5	蔭	カゲ	L2	L2	L2	L2
2	3	夢	ユメ	H1	H1	H0	H0	2	5	蜘蛛	クモ	L2	L2	#H0	L2, H0
2	3	綿	ワタ	H1	H1	H0	H0	2	5	黒	クロ	L2	L2	L2	L2
2	3	鰐	ワニ	H1	H1	H1	H0	2	5	鯉	コイ	L2	L2	L2	L2
2	4	跡	アト	L0	L0	L2	L2	2	5	声	コエ	L2	L2	L2	L2
2	4	息	イキ	L0	L0	L0	L0	2	5	琴	コト	L2	L2	?H0, H1	H0
2	4	板	イタ	L2	L0	L0	L0	2	5	鮭	サケ	L2	L2	L2	L2
2	4	何時	イツ	L0	L0	L0	L0	2	5	猿	サル	L2	L2	L2	L2
2	4	糸	イト	L0	L0	L0	L0	2	5	白	シロ	L2	L2	L2	L2
2	4	稻	イネ	L0	L2	?L2	L0	2	5	縦	タテ	L2	L2	L2	L2
2	4	白	ウス	L2	L2	L0	L0	2	5	足袋	タビ	L2	L0	L0	L0

秋 山 英 治

拍 類	項目	読み	大島		多喜浜		拍 類	項目	読み	大島		多喜浜	
			G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)				G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)
2 5	常	ツネ	L2	L2	L2	L2	2 Z	咳	セキ	H1	H1	H1	H1
2 5	露	ツユ	L2	L2	L2	L2	2 Z	千象	センゾウ	L0	L0	L0	L0
2 5	鶴	ツル	L2	L2	?H1, L2	L2	2 Z	象	ゾウ	H1	H1	H1	H1
2 5	鍋	ナベ	L2	L2	L2	L2	2 Z	蕎麦	ソウメン	L0	L0	L0	L0
2 5	鱧	ハモ	L2	L2	L2	H1	2 Z	帆	カ	H1	H1	H0	H0
2 5	春	ハル	L2	L2	L2	L2	2 Z	只	タガ	L0	L2	L2	L2
2 5	蛭	ヒル	L2	L2	?H1	H1, L2	2 Z	ダニ	ダニ	L0	L2	H1, L2	L2
2 5	鮒	フナ	L2	L2	L2	L2	2 Z	東	タバ	L0	L0	L0	L2
2 5	蛇	ヘビ	L2	L0	L2, H1	L2	2 Z	鰯	イサ	L2	L2	H1	H1
2 5	前	マエ	L2	L2	L2	L2	2 Z	樽	タル	H1	H1	H1	H1
2 5	窓	マド	L2	L2	L2	L2	2 Z	段	ダン	H1	H1	?H1, L0	H1
2 5	繭	マユ	L2	L2	L2	L2	2 Z	知恵	チエ	H1	H1	H1	H1
2 5	婿	ムコ	L2	L2	L2	L2	2 Z	地固	チズメ	H1	H1	L2	L2
2 5	股	モモ	H0	H0	L0	L0	2 Z	蔓	ヅル	H1	L2	H1	L2
2 X	今	イマ	L0	L0	L0	L2	2 Z	鉄	テツ	H1	H1	H1	H1
2 X	上	ウエ	H1	H1	H1	H1	2 Z	出目	デメ	L2	L2	L2	L2
2 X	内	ウチ	L0	#L0	H0	H0, H1	2 Z	寺	テラ	H1	H1	H0, H1	H0
2 X	沖	ウキ	H1	H1	#L0	H0	2 Z	天	テン	H1	H1	H1	H1
2 X	奥	ウラ	H1	L2	L2	L2	2 Z	土砂	ドシヤ	H1	H1	H1	H1
2 X	亀	カメ	H1	L2	H0	H0, L2	2 Z	土手	ドテ	L2	L2	L2	L2
2 X	鴨	カモ	H1	L2	H0, H1, L0, L2	L2	2 Z	ドブ	ドブ	L2	L2	L2	L2
2 X	こ	ココ	L0	L2	L0	L0	2 Z	どれ	ドレ	H0	H1, H0	H0	H0
2 X	下	シタ	H1	H1	H1	H1	2 Z	猶	ナオ	L2	L2	L2	#H1
2 X	そ	ソコ	L0	L2	L0	L0	2 Z	謎	ナゾ	H1	H1	?H1	H1
2 X	蛸	カ	H1	H1	H0, H1, L0, H0	L2	2 Z	生	ナマ	L2	L2	L2	L2
2 X	鳩	ハト	H1	H1	H0, H1, L0, H0	L2	2 Z	奈良	ナラ	H1	H1	H1	H1
2 X	夜	ヨル	L0	L2	L2	L2	2 Z	肉	ニク	H1	H1	H0	H0
2 Z	顎	アゴ	H1	H1	H1	H1	2 Z	肉	ニク	H1	H1	H0	H0
2 Z	味	アジ	H1, H0	H1	H0, H1	H0	2 Z	二羽	ニウ	L0	L0	L0	L0
2 Z	仇	アタ	H0	L0	H0	L2	2 Z	葱	ネギ	H1	H1	H1	H1
2 Z	粗	アラ	H1	H1, L2	H1, L2	H1	2 Z	熱	ネ	H1	H1	H0	H1
2 Z	以後	イコ	H1	H1	H1	#L0	2 Z	沼	ヌマ	H1	H0, L0	H0	H0
2 Z	椅子	イス	H1	H0	H0	H0	2 Z	猫	ネコ	L2	L2	L2	L2
2 Z	仔	イモ	H1	H1	H1	H1	2 Z	喉	ノド	H1	L0	L0	L0
2 Z	疣	イボ	L2	L2	L2	L2	2 Z	糊	ノリ	H1	H1	H0	H0
2 Z	嘘	ウソ	L2	L2	H1	L2	2 Z	馬鹿	バカ	L0	L2	L0	L0
2 Z	う	ウト	H1	H1	H1, L2	H1, L2	2 Z	禿げ	ハゲ	L2	L2	L2	L2
2 Z	運	ウン	L0	L0	L0	L0	2 Z	馬車	バシヤ	L2	H1	L2	L2
2 Z	過	カ	H1	H1	H1	H1	2 Z	バス	バス	H1	H1	H1	H1
2 Z	舵	カシ	H1	H1	H1	H0	2 Z	八	ハチ	H1	H1	H1	H0
2 Z	火事	カシ	H1	H1	H1	H1	2 Z	罰	バチ	#H0	H1	H0	H1
2 Z	空	カラ	L2	L2	L2	L2	2 Z	晩	バン	H1	H0	?L0	H0
2 Z	缶	カン	H1	H1	H1	H1, L0	2 Z	番	バン	H1	?H0	L0	H0
2 Z	缶	カン	L0, H1	H1	L0	L0	2 Z	パン	パン	H1	H1	H1	H1
2 Z	き	キ	H1	H1	?L2, H1	H1	2 Z	襲	ヒク	#H0	H0	L2	L0
2 Z	規模	キホ	H1	H1	L0, H1	H1	2 Z	雑	ヒヤ	L0	H1	L2	L2
2 Z	九	キュウ	H1	H1	H1	H1	2 Z	百	ヒヤク	H1	H1	H0	H0
2 Z	金	キン	H1	H1	H1	H1	2 Z	平	ヒラ	L2	H0	L2	L2
2 Z	癖	クセ	H1	H1	H1	H1	2 Z	ピラ	ヒラ	L2	L0	L2	L2
2 Z	癩	コブ	L2	L2	L2	L2	2 Z	枇	ヒラ	H0	?H0	#L0	H0
2 Z	癩	コブ	L2	L2	L2	L2	2 Z	杷	ヒラ	H0	?H0	#L0	H0
2 Z	独	コマ	L0	L0	L0	L2	2 Z	ビン	ビン	H1	H1	H1	H1
2 Z	ゴム	ゴム	H1	H1	H1	H1	2 Z	服	フク	H1	H1	H1	H1
2 Z	柵	サカ	H1	H1	H0, H1	H1, H0	2 Z	豚	ブタ	L2	L0	L2	L2
2 Z	さ	サザ	H1	H1	H1	H1, L2	2 Z	ブナ	ブナ	H1	H1	H1	H1
2 Z	三	サン	H0	H0	H1	H1	2 Z	鱈	ブリ	H1	H1	H1	H1
2 Z	鹿	シカ	H1	H1	H0	H0	2 Z	風呂	フロ	H1	H1	H0	H0
2 Z	事	シゴ	H1	H1	H1	H1	2 Z	堀	ヘイ	H1	H1	H0	H1, H0
2 Z	紫	シロ	L0, H1	L0	L2	L2	2 Z	変	ヘン	L0, H1	L0	H1	L0
2 Z	七	シチ	H1	H1	H1	H1	2 Z	棒	ホウ	H0	H0	H0	H0
2 Z		ヒチ	H1	H1	H1	H1	2 Z	骨	ホネ	H1	H1	H0	H0
2 Z	緋	ヒ	H1	H1	H1	H1	2 Z	ぼ	ホ	H1	H1	H1	H1
2 Z	車庫	シヤコ	L2	L2	L0	L2	2 Z	ぼ	ホ	H1	H1, H0	H1, L2	L2
2 Z	軍	シヤク	H1	H1	H1	H1	2 Z	捕	ホリ	H1	H1	H1	H1
2 Z	十	シユウ	H1	H1	H1	H1	2 Z	ぼ	ホ	L2	L2	L2	L2
2 Z	図	ズガ	L2	L2	H1	L2	2 Z	本	ホン	H1	H1	L0	H0
2 Z	砂	サ	H0	H0	H0	H0	2 Z	盆	ボン	L0	L0	L0	L0
2 Z	ス	スリ	H1	H1	H1	H1	2 Z	盆	ボン	H1	H0	H1	H0, L2
2 Z	席	セキ	H1	H1	?L0	H1	2 Z	まだ	マダ	L0	L0	L0	L0

愛媛県新居浜市大島方言のアクセント

拍	類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜	拍	類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜
				G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)					G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)
2	Z	万	マン	H1	H1	L0	#H0	3	2	夕べ	ユーベ	L3, L0	L3	L3	L3
2	Z	溝	ミヅ	H0	H0	H0	H0	3	4	明日	アツク	H3	H0	H3	H3
2	Z	蜜	ミツ	H1	H1	H0	H0	3	4	頭	アたま	H1	H1	H0	H0
2	Z	無茶	ムチャ	L2	L0	L2	L2	3	4	団扇	ウチヲ	H1	L2	H0	H0
2	Z	もし	モシ	H1	H1	H1	H1	3	4	男	オトコ	H1	H1	H0	H0
2	Z	百舌	モズ	L2	L0	L2	L2	3	4	表	オモテ	H1	H1	H0	H0
2	Z	餅	モチ	H0	H0	H0	H0	3	4	鏡	かがミ	H1	H1	H0	H0
2	Z	門	モン	H1	H1	H1, H0	H0	3	4	敵	かたキ	H1	H1	H0	H0
2	Z	山羊	ヤキ	L2	L0	H1, L2	H1, L2	3	4	刀	かたナ	L2	H1	H0	H0
2	Z	自棄	ヤク	L2	L2	L2	L2	3	4	鉈	かな	H1	H1	H0	H0
2	Z	瘦せ	ヤセ	H1, H0	H0	L2	H0, L2	3	4	昨日	キノ	H1	H1	H1	H1
2	Z	屋根	ヤネ	L0	L0	L0	L2	3	4	言葉	コトバ	H1	H1	H0	H0
2	Z	やや	ヤヤ	H1	H1	H1	H1	3	4	唇	クソミ	H1	H1	H0	H0
2	Z	湯気	ユク	L2	L2	L2	L2	3	4	境	サカイ	L0	L0	L0	L0
2	Z	酔い	ヨイ	H0, H1	H0, H1	H0	H0	3	4	白髪	シラカ	H1	H1	L2	L2
2	Z	用	ヨー	H1	H1	H0	H1	3	4	硯	スズリ	H1	H0	L2	H0
2	Z	理科	リカ	L2	L2	L2	L2	3	4	宝	タカラ	H1	H1	H0	H0
2	Z	蠟	ロー	H1	H1	H0	H0	3	4	助け	タスケ	H0	H0	H0	H0
2	Z	六	ロク	H1	H1	H1	H1	3	4	谷間	タニマ	H0	H0	H0	H0
2	Z	驢馬	ロバ	H1	H1	H1	H1	3	4	頼み	タリミ	H1	H0	H0	H0
2	Z	和歌	ワカ	H1	H1	H1	H1	3	4	俵	タラ	H1	H1	H0	H0
3	1	田舎	イカ	H0	H0	H0	H0	3	4	包み	ツツミ	H1	H0	H0	H0
3	1	鯛	イシ	H0	H0	H0	H0	3	4	鮭	ナマス	H1	H1	H0	H0
3	1	うがい	ウガイ	H0	H0	H0	H0	3	4	匂い	ニオイ	H0	H0	H0	H0
3	1	漆	ウルシ	H0	H0	H0	H0	3	4	縫い目	ヌイメ	#H2, L2	H1	H0	H0
3	1	踊り	オドリ	H0	H0	H0	H0	3	4	鉄	ハヤミ	#H2, L2	L2	L2	L2
3	1	飾り	カザリ	H0	H0	H0	H0	3	4	林	ハヤシ	H0	H0	L0	L0
3	1	形	カタチ	H0	H0	H0, H1	H0, H1	3	4	光	ヒカリ	H1	H0	H0	H0
3	1	鏝	カヅオ	H0	H0	H0	H0	3	4	袋	フクロ	H1	L2	H0	H0
3	1	着物	キモノ	H0	H0	H0	H0	3	4	襖	フスマ	H1	H0	H0	H0
3	1	鎖	クサリ	H0	H0	H0	H0	3	4	筵	ムシロ	H1	H1	H0	L0
3	1	車	クルマ	H0	H0	H0	H0	3	5	朝日	アサヒ	H2, H1	H1	H1	H1
3	1	煙	ケムリ	H0	H0	H0	H0	3	5	油	アブラ	H1	H1	L0	H0
3	1	氷	コリ	H0	H0	H0	H0	3	5	鮑	アブリ	H1	H1	H1	H1
3	1	今年	コトシ	H0	H0	H0	H0	3	5	哀れ	アワレ	H1	H1	H1	H1
3	1	子供	コトモ	H0	H0	H0	H0	3	5	五つ	イツツ	H1	H1	H0	H0
3	1	魚	サカナ	H0	H0	H0	H0	3	5	徒弟	イトコ	H1	H1	H1	H1
3	1	桜	サクラ	H0	H0	H0	H0	3	5	命	イノチ	H1	H1	H1	H1
3	1	障子	ジョウジ	H0	H0	H0	H0	3	5	親子	オヤコ	L0	L0	L0	L0
3	1	印	シルシ	H0	H0	H0	H0	3	5	神楽	カガラ	H1	H1	L2	H0
3	1	相撲	スモ	H0	H0	H0	H0	3	5	鯨	カレ	H1	H1	H1	H1
3	1	畳	タタミ	H0	H0	H0	H0				カレイ	カレイ	カレイ	カレイ	
3	1	序で	ウイデ	H0	H0	?H0	H0	3	5	胡瓜	キュウリ	H1	H1	H0	H0
3	1	机	ツクエ	H0	H0	H0	H0	3	5	心	ココロ	H1	H1	H0	H1
3	1	隣	トナリ	H0	H0	H0	H0	3	5	柶	サケ	H1	H1	H1	H1
3	1	名前	ナマエ	H0	H0	H0	H0	3	5	姿	スカタ	H1	H1	H1	H1
3	1	寝言	ネゴト	H0	H0	H0	H0	3	5	簾	スダレ	H1	H1	H1	H1
3	1	始め	ハジメ	H0	H0	H3	H3	3	5	襷	タスキ	H3	L2	L2	L2
3	1	鼻血	ハナジ	H0	H0	H0	H0	3	5	情け	ナシク	H1	H1	H0	H0
3	1	羊	ヒツジ	H0	H0	H0	H0	3	5	涙	ナミダ	H1	H1	H0	H0
3	1	二日	フツカ	H0	H0	H0	H0	3	5	柱	ハツラ	L2	L2	L2	L2
3	1	埃	ホコリ	H0	H0	H0	H0	3	5	単衣	ヒトエ	L2, L0	L2	L2	L2
3	1	味方	ミカタ	H0	H0	H0	H0	3	5	火箸	ヒバシ	H1, L0	H1	L0	L0
3	1	三日	ミツカ	H0	H0	H0	H0	3	5	帚	ホウキ	H1	H1	H0	H0
3	1	港	ミナト	H0	H0	H0	H0	3	5	枕	マクラ	H1	H0	H0	H0
3	1	昔	ムカシ	L3	L3	L3, L0	L3	3	5	紅葉	モミジ	H1	H1	H1	H1
3	1	息子	ムスコ	H0	H0	H0	H0	3	5	山葵	ワサビ	H1	H1	H1	H1
3	1	柳	ヤナギ	H0	H0	H0	H0	3	6	菖蒲	アヤメ	L0	L0	L0	L0
3	1	涎	ヨダレ	H0	H0	H0	H0	3	6	兎	ウサギ	L0	L0	L0	L0
3	2	小豆	アズキ	L2	L2	L2	L2	3	6	鱈	ウナギ	L0	L0	L0	L0
3	2	女	オンナ	H1	H1	H1	H1	3	6	大人	オトナ	L0	L0	L2	L2
3	2	毛抜き	クヌキ	#H2	H0	L2	L2	3	6	鴉	カモメ	L0	L0	L0	L0
3	2	東	ヒガシ	H1	H1	H1	H1	3	6	狐	キツネ	L0	L0	L0	L0
3	2	二重	フタヘ	H1	L2	L2, L0	L0	3	6	虱	シラミ	L0	L0	L0	L0
3	2	二つ	フタツ	H1	L2	L0	L0	3	6	すすき	ススキ	L0	L0	L0	L0
3	2	二人	フタリ	L2	L2	L0	L0	3	6	雀	スズメ	L0	L0	L0	L0
3	2	三つ	ミツツ	L2	H3	H1	H1	3	6	季	スモモ	L0	L0	L0	L0
3	2	娘	ムスメ	#H2, H1	H1	H1	H1	3	6	背中	セナカ	H0	H0	H0	H0

秋 山 英 治

拍 類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜	拍 類	項目	読み	大島	大島	多喜浜	多喜浜		
			G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)				G・M (30m)	G・m (40m)	M・J (44f)	O・M (44m)		
3	6	高さ	カサ	L0	L0	L0	L0	3	Z	蕎麦屋	ウヤ	L0	L2	L2, L0	L2
3	6	団子	ダンゴ	L0	L0	L0	L0	3	Z	扉	トビ	L2	H0	H1	H1
3	6	田圃	カホ	L0	L0	L0	L0	3	Z	ノッポ	ノッポ	L3	L3	H1	H1
3	6	燕	ツバメ	L0	L0	L0	L0	3	Z	嘘毛	マツゲ	L2	L2	L2	L2
3	6	長さ	ナカサ	L0	L0	L0	L0	3	Z	マツチ	マツチ	L3	L3	H1	H1
3	6	鼠	ネズミ	L0	L0	L0	L0	3	Z	蜜柑	ミカン	H1	H1	L2	L2
3	6	裸	ハダカ	L0	L0	L0	L0	3	Z	岬	ミサキ	H1	H0	H0, L0	H0
3	6	裸足	ハダシ	L0	L0	L0	L0	3	Z	皆	ミンナ	L2, L3	L2	L2	L3, L2
3	6	左	ヒダリ	L0	L0	L0	L0	3	Z	林檎	リンゴ	L2	L2	H0, L2	L2
3	6	雲雀	ヒバリ	L0	L0	L0	L0	3	Z	若芽	ワカメ	H1	H1	H1	H1
3	6	広さ	ヒロサ	L0	L0	L0	L0	4	Z	合い鍵	アイカギ	H0	H0	H0	H0
3	6	みみず	ミミズ	L0	L0	L0	L0	4	Z	朝顔	アサガオ	L2	H0	H1	H1
3	6	蓬	ヨモギ	L0	L0	L0	L0	4	Z	足音	アシオト	H0	H0	H0	H0
3	7	苺	イチゴ	L2	L2	L2	L2	4	Z	甘酒	アマザケ	H1	L2	H1	H1
3	7	後ろ	ウシロ	L2	L2	L2	L2	4	Z	編み物	アモノ	L0	H0	H0	H0
3	7	蚤	カビ	L2	L2	L2	H1	4	Z	雨降り	アメフリ	L2	L2	L2	L2
3	7	兜	カブト	L2	L2	L2	L2	4	Z	猪	イノシシ	H1	H1	H1	H1
3	7	辛子	カシ	L2	L2	L2	L2	4	Z	鶯	ウグイス	L2	H1	H1	H1
3	7	鯨	クジラ	L2	L2	L2	L2	4	Z	渦巻き	ウスマキ	H0	H0, L2	H3	H0
3	7	葉	クサ	L2	L2	L2	L2	4	Z	梅干し	ウメボシ	H3, H0	H0	H3	L3
3	7	卵	タマゴ	L2	L2	L2	L2	4	Z	弟	トト	H0	H0	#L0	H0
3	7	便り	タヨリ	L2	H1	L2	H0	4	Z	音楽	ウタカク	L2, H1	H1	H1	H1
3	7	盥	タイ	L2	L2	L2	L2	4	Z	金持ち	カネモチ	H3	H0	L2	L2
3	7	椿	ツバキ	L2	L2	L2	L2	4	Z	蜘蛛	カマキリ	L3	L3	L3	L3
3	7	鉛	ナマリ	L2	L2	L2	L2	4	Z	刺刀	カミナリ	L0	L3, L0	L3	K0
3	7	畑	ハタケ	L0	L0	L0	L0	4	Z	雷	カミナリ	H1	H0	H0	H0
3	7	一つ	ヒトツ	L2	L2	L2	L2	4	Z	唐傘	カラカサ	H1	L2	L2	H0
3	7	一人	ヒトリ	L2	L2	L2	L2	4	Z	ガラス戸	ガラスド	H3	H3	H3	H3
3	7	緑	キナンド	L2	L2	L2	L2	4	Z	記念日	キネンビ	H3	H3	L2	L2
3	7	病	ヤマイ	L2	H1	L2	L2	4	Z	兄弟	ケイテイ	L2	L2	L2	L2
3	7	X 間	アイダ	H0	H0	H0	H0	4	Z	粟屋	クリヤ	L0	L0	L0	L0
3	7	X 欠伸	アケビ	H0	L0	L0	L0	4	Z	口笛	クチフエ	H2	H3	H3	L3
3	7	X 嵐	アラシ	H1	H1	H0	H1, H0	4	Z	黒んぼ	クロンボ	L2	L2	L2	L4
3	7	X 柏	カシ	L2	L2	L2, L0	L2	4	Z	蝙蝠	コモロ	H1	H1	L2	H1
3	7	X 鳥	カラス	L0	L0	L0	L0	4	Z	秋桜	コスモス	L2	H1	H1	H1
3	7	X 栄螺	ササエ	L2	L2	H1	L2	4	Z	小麦粉	コムギコ	H0	H0	L0	L0
3	7	X 狸	タヌキ	L2	L2	L2	L2	4	Z	蕪蕪	コンニク	H1	H3	L0	H3
3	7	X 力	チカラ	H1	H1	H1	H1	4	Z	坂道	サカミチ	L2	#H2, L2	H1	H1
3	7	X 翼	ツバサ	H3	L0	L0	L0	4	Z	座布団	ザブトン	L0	L0	L0	L0
3	7	X 釣瓶	ツルベ	H0	H0	L0	L0	4	Z	三月	サンガツ	L2	L2	L2	L2
3	7	X 蜥蜴	トカゲ	L2	L2	L2	L2	4	Z	椎茸	シイタケ	H1	H1	H1	H1
3	7	X 仲間	ナカマ	H1	H0	H0	H0	4	Z	正月	ショウガツ	L2	H1	H3	H3
3	7	X 斜め	ナナメ	H0	H0	H0	H0	4	Z	スリッパ	スリッパ	L2	L2	L2	L2
3	7	X 二十歳	ハチ	H1	H1	H1	H1	4	Z	先生	センセイ	H1	H1	L3	H0
3	7	X 麓	フミ	H0	L0	L0	L0	4	Z	洗濯	センタク	H0	H0	#L0	L0
3	7	X 螢	ホタル	L2	L2	L2	L2	4	Z	玉葱	タマネギ	L0	L3	L0	L0
3	7	X 御典	ミコシ	H1	H0	L2	H0	4	Z	手袋	テウクロ	L0	L0	L0	L0
3	7	X 南	ミナミ	H0	H0	H1, H0	H0	4	Z	友達	トモダチ	H0	H0	H0	H0
3	7	X 向こう	ムコウ	H1	H1	L2	H1	4	Z	土曜日	ドヨロビ	L3	L2	L3	L3
3	7	X 盲	メクラ	L3	L0	L3	L3	4	Z	細紙び	サイトビ	L3, L0	L3, L0	L0	L0
3	7	X 草鞋	ワラジ	L0	L0	L0	L0	4	Z	鶏	ニトリ	L0	#H0	L0	L0
3	7	X 蕨	ワラビ	H1	H1	H1	H1	4	Z	人参	ニンジン	L0	L0	L0	L0
3	7	Z 通草	アケビ	L2	L2	H0	H0	4	Z	蛤	ハマグリ	L3	L3	L3	L0, L3
3	7	Z えくぼ	エキボ	H1	H1	H1	H1	4	Z	歯磨き	ハミガキ	H0	H1	H1	H1
3	7	Z 櫻	エビ	H1	H1	H1	H1	4	Z	針金	ハリガネ	L0	L0	L0	L0
3	7	Z 垣根	カキネ	L0	L0	L0	L0	4	Z	引越	ヒッコシ	H0	L0	L0	H0
3	7	Z 瓦	カラワ	H1	H1	H1, H0	H1	4	Z	鳥	フクロ	L2	L2	L2	L3
3	7	Z 櫻	クサビ	H0	H0	H0	L0	4	Z	松茸	マツタケ	L3	L3	L0	L0
3	7	Z 毛虫	ケムシ	L2	H1	L2	L2			マツタケ	マツタケ				
3	7	Z 獸	ケモノ	H0	H0	H0	H0	4	Z	右側	ミギガタ	H0	H0	#L0	L0
3	7	Z 黄金	コウゴン	H0	L0	L0	H0	4	Z	蜜蜂	ミツバチ	H2	#H2, L2	H1	H1
3	7	Z 梢	コスエ	H0	H0	?L0	H0	4	Z	柴	ムラサキ	L2	L2	L2	L2
3	7	Z 木壺	コダマ	H0	H0	H0	H0	4	Z	餅つき	モチつき	H3	H2	L2	L2
3	7	Z 牛蒡	コボ	H0	H0	H0	H0	4	Z	物置	モノヅキ	H0	L3	L0	L0
3	7	Z 小道	コミチ	H1	H0	H0	H1	4	Z	来月	ライゲツ	L2	L2	L2	L2
3	7	Z 小麦	コムギ	H2	H1	L2, L0	L2	4	Z	蠟燭	ロウソク	H1	H1	L0	H3
3	7	Z 蠟	ソウ	H0	H0	H0	L0								
3	7	Z 實の子	スノコ	H0	H0	H1	H0								